



支援者のための

気仙沼方言入門

このパンフレットをご覧くださいる方へ

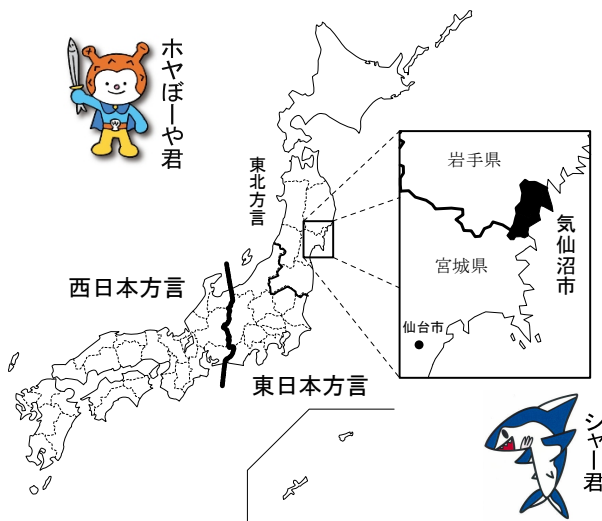
このパンフレットは、主に気仙沼地方の外から来られたボランティアや医療・行政関係者といった支援者の方々を対象に作成されています。現地の方との交流の中で、初めて聞く方言に戸惑ったこともあるのではないのでしょうか。気仙沼の方言をより理解するために、このパンフレットを役立てていただけたらと思います。

なお、このパンフレットは現地で行った支援者の方々へのインタビュー調査の結果をもとに、気仙沼の方言について簡単に紹介しています。

気仙沼方言の位置

気仙沼で話される方言は、全国から見ると東北地方の方言の特徴を持っています。

右の図のように、気仙沼は宮城県の北東部に位置する市で、岩手県南部の沿岸地域と地理的に連続しています。そのため、方言の特徴としては宮城県の言葉の他に、岩手県南部の沿岸地域の言葉とも共通した面があります。



気仙沼方言って、どんな方言??

気仙沼の方言にはどんな特徴があるのでしょうか。
分かりにくい点、注目すべき点についてご紹介します。

1. 発音

(1) シガスに聞こえる

シはスに、チはツに、ジはズに聞こえます。いわゆる「ズーズー弁」です。

「獅子(しし)」 } 「スス」
「煤(すす)」 }
「寿司(すし)」 }

「知事(ちじ)」 } 「ツズ」
「地図(ちず)」 }
「辻(つじ)」 }

気仙沼の地名だと、
「鹿折(ししおり)」が「ススオリ」
「鮪立(しびたち)」が「スビダツ」
に聞こえることがあるかも。



他にも、シュはス、ジュはズ、チュはツに聞こえます。
「手術(しゅじゅつ)」 → 「スズツ」

(2) カ行・タ行がガ行・ダ行に聞こえる

たとえば「開ける」は「アゲル」、「的」は「マド」のように聞こえることがあります。ちなみに、共通語の「上げる」や「窓」など、もともとの濁音は鼻にかかって聞こえます。

「開ける」 → 「アゲル」
「的(まと)」 → 「マド」

「上げる」 → 「ア^ンゲル」
「窓(まど)」 → 「マ^ンド」

支援者の方へのインタビューで得られた、音がこもって聞こえるという感想は、この鼻濁音によるものだと思います、シャー。



(3) キガチに聞こえる

キガチに聞こえることがあります。

「柿(かき)」 → 「カチ」
「来た(きた)」 → 「チタ」

支援者の方から聞いた話だと、「救急車が「チューチューシャ」に聞こえた。」という体験談があったよ。



2. 文法

(1) 「～サ」(共通語「～に・～へ」)

- 学校サ行く。(学校へ行く。)
- 仕事サ行く。(仕事に行く。)
- × 本サ買う。(本を買う。)

「～に」や「～へ」を、気仙沼では「～さ」と言うよ。「～を」の場合は使えないので注意、チャー。



(2) 「～ベ・～ッペ」(共通語「～だろう[推量]」「～しよう[意志]」)

- ・明日、雨だべ。(明日雨だろう。)
- ・みんなでがんばッペ
(みんなでがんばろう。)

「～だろう」と推量したり、「～しよう」と意志を表したりするとき、気仙沼では「ベ・ッペ」を使うよ。



(3) 「～ッコ」(身近にある小さい物を親しみを込めて呼ぶときに使う)

- ・そのひもッコ、取ってけろ。
(そのひもを取ってくれ。)

あめッコ(あめ玉)、花ッコ(花)、お茶ッコ(お茶)、ぼッコ(棒)も使う、チャー。



3. 間違いやすい単語

(1) 「ナゲル」(共通語「捨てる」)

- ・あどナゲねばわがねぞ。(もう捨てないとだめだ。)
- ・ナゲでおいでけろ。(捨てておいてくれ。)

(2) 「ダカラ・ホンダカラ」(共通語「(本当に) そうだね」)

- ー今日、暑いごとね。(今日は暑いね。)
- ーホンダカラ！(本当にそうだね。)

相手の話に強い同意を示すとき、「ダカラ」を使うよ。共通語の「～なので」と間違いやすいから注意してね！



(3) 「コワイ」「コエー」(共通語「疲れた」)

- ・コエーなあ。(疲れたなあ。)

(4) 「ワガンネ」(共通語「だめだ」)

- ・そんなごとやってワガンネヨ。(そんなことやってはだめだ。)
- ・寒ぐでワガンネ。(寒くてだめだ・仕方ない。)

使ってみよう！おススメの気仙沼方言！

〇夕方から晩のあいさつ

「オバンデス」（こんばんは）

「[[目上の人へ] オバンデゴザリス」（こんばんは）

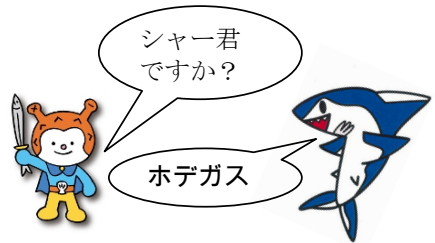
〇別れのあいさつ

「サイナー」（さようなら）

「マタダイン」（また来てください）

「オスズガニ」（お静かに、おやすみなさい）

〇そうです：「ホデガス」



病気や気分を表す語

看護師や保健師の方へ

「アンベア（按配）」：健康状態。

「サブキ」：咳。

「ハラピリ」：急な下痢。

「フケサメ」：病状がよく変わること。

「コザス」：病気をこじらせる。

「スッコグル」：皮膚をすりむく。

「イズイ」：違和感がある様子。

「ハカハカ」：息切れする様子。

「アフラアフラ」：ふらふらして元気がない様子。

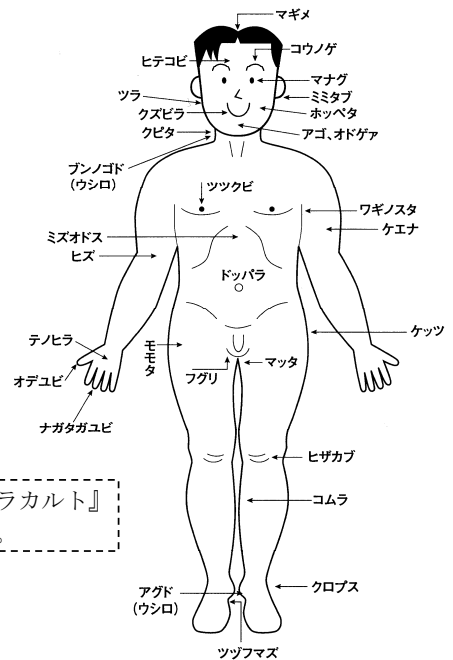
「ネダソラネエ」：寝た気持ちになれない様子。

「セラセラスル」：のどがいらいらする様子。

（セセラポイ）

菅原孝雄著『けせんぬま方言アラカルト』
三陸新報社をもとにしています。

気仙沼地方の人体呼称図



道具の名称

ボランティアの方へ

「クマデ」：鉄の歯がくし状に並ぶ道具。泥かきなどに用いる。一般的には大きいものをレーキ、小さいものをクマデと呼ぶ。気仙沼ではどちらもクマデ。

「ネコ」：一輪車（資材を運ぶ手押し車）

「バリ」：パール（釘抜きのような形の道具）

気仙沼市役所・教育委員会・地元関係者の皆様、そして気仙沼にいられた支援者の皆様からご協力を得て作成しました。

このパンフレットについてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい！



支援者のための気仙沼方言入門

2011年8月27日 発行

作成：東北大学文学部国語学研究室

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

TEL・FAX：022-795-5987

E-mail: kobataka@sal.tohoku.ac.jp